令和４年度第２回石狩市社会教育委員の会議議事録（要約）

日　時　　令和４年１２月１５日（木）　１０時００分～１１時３０分
場　所　　石狩市民図書館　視聴覚室
出席者
［出席委員（１１名）］
木村純（委員長）、大橋修作（副委員長）、山田聡、二上朋子、山田治己、近藤宏、大内さつき、船木幸弘、出口寿久、松本史子、高橋典只
［事務局（４名）］
西田正人社会教育担当次長、斉藤晶社会教育課長（社会教育主事）、薩来翔希主事（社会教育主事）、大澤芽主事
［傍聴者（１名）］

【事務局】
定刻となりましたので、ただいまから令和４年度第２回石狩市社会教育委員の会議を開催いたします。
はじめに、木村委員長からご挨拶をお願いいたします。

【木村委員長】
天候が悪い中、お集まりいただきありがとうございます。
バスの中からお店がなくなっていることを目にするとコロナの影響をひしひしと感じます。コロナが収束して本当の意味での社会教育が出来るようになることを祈っています。
では、会議次第にしたがって進めます。先ず、報告ですが、１０月１４日に第６１回北海道社会教育研究大会留萌大会がオンラインで開催され、私は二つの講演に参加しました。
１つ目は、広島県大竹市玖波公民館の講演です。全国的に有名な公民館で、講演された方はとても元気な方で元々はこの町の出身者ではなく、これからの地域づくりに公民館が重要な役割を果たすと考えて職員になったそうです。
玖波公民館は現場主義で、地域課題についてよく考え、地域目線で一緒に汗を流し、多世代を巻き込み、決して結果をすぐに求めず、ビジョンをもって継続する事業戦略をみんなで考えることが大切だとお話しされていました。
２つ目は、北海道医療大学の教員をされており、現在は福祉法人の理事長をされていた長谷川先生の講演でした。
社会教育という狭い枠の中ではなく、皆が住みやすい地域を作るにはどうしたらいいかということを考えている方です。
２人の講演を聞いて思ったことは、ネットワークの中心にいて重要な役割を果たしてい

るだけでなく、一緒に活動してくれる人を巻き込んで進めているところが重要なのだと改めて感じさせられました。

【事務局】
補足です。
今回皆さんにはプログラムをお配りしましたが、講演資料が必要な方にはデータをお渡ししますので、後ほどお声がけください。

【木村委員長】
コロナが流行して以来、中止になっていた研究大会が久々に開催されましたがオンラインでしたので、早く、社会教育委員が複数で現地に赴き、交流できるようになればいいな思いました。
報告についてはよろしいでしょうか？
では、次に進みます。
令和４年度石狩市芸術文化振興奨励補助金について事務局から報告をお願いします。

【事務局】
事務局からご説明いたします。
第１回の会議でご検討いただきました「小檜山博文学を読む会記念誌発行事業」について、記念誌が完成いたしました。全 453 頁で全て手書きのこだわりの詰まった記念誌となっております。
また、今回の記念誌は発行部数が少なかったことから皆さんの手に渡るようにできないため、現在、図書館司書と相談の上、図書館内の特集展示ということで今年度中に市民の皆さんの目に触れる形にしたいと思っております。

【木村委員長】
これまで団体の皆さんが作ってきた会報誌をまとめたものなので、地域活動の研究材料になるので、できるだけたくさんの石狩市民の皆さんにこのような活動があるということを知ってもらうことが重要であると思います。
では、以上で令和４年度石狩市芸術文化振興奨励補助金の報告を終わります。
次に、社会教育の振興に関する取り組みについて私から説明いたします。
社会教育委員になって６期目になりますが、道内でも数少ない複数の札幌市民が委員をつとめている委員会です。
石狩市のことを、石狩市の社会教育のことを、厚田・浜益のことを社会教育委員がよく知る必要があります。地域課題を把握して何が出来るか市民と一緒に学ぶことが重要です。

コロナで中断してしまったが、高齢者の居場所、活動はどうなっているかの調査に取り組み、それに代わり、公民館を利用しているサークルなどがどのような状況に置かれているかのヒアリング調査をしていました。

今回からは社会教育委員の会議の中で社会教育が地域のためにどのような役割を果たしていく必要があるのかを皆さんと考えていきたいと思います。

本格的に検討するのは次回からですが、本日、皆さんがどのように考えているのかを聞いて、来年度に向けての話し合いの土台とします。

事務局が石狩市の社会教育行政の取り組みをまとめてくれたので、報告をお願いします。

【事務局】

昨年度も委員だった方は実施報告で耳にしている方はおられると思いますが、新たに委員となった方もいらっしゃるので、主な事業をご説明させていただきます。

いしかり市民カレッジは「いつでもだれでも学ぶことができ、市民自らが講座を企画したり教えたりできる新しい学びの形」をキャッチコピーに平成21年から活動しています。市教委は事務局としてサポートしていますが、講座の組み立て、講師との調整等は全て市民が行っています。

地域学校教育本部活動では、あい風寺子屋教室という放課後の居場所づくり事業があります。現在は紅南小学校と花川南小学校で実施しております。

次に石狩市民文化祭です。コロナの影響を受けていますが、その中でアートウォームで長期間展示する等、工夫して実施しております。

事業ではないですが、社会教育関係団体の登録や芸術文化振興奨励補助金の交付等、団体への支援も業務として行っております。

いくつか事業をご説明させていただきましたが、このほか、青少年分野は保健福祉部子ども政策課、スポーツ分野は保健福祉部スポーツ健康課が担当する等、社会教育関係業務は市役所内でも広く実施されております。

簡単ではございますが、説明は以上です。

【木村委員長】

皆さんから自由に石狩市の社会教育についてお話ししていただきます。

石狩市民図書館やいしかり市民カレッジは石狩の社会教育の中で特に誇れる部分だと感じています。

子どもに関する部分は所管が社会教育課ではないこともあり、社会教育委員の会議で話を深めていくことが出来ていませんが、社会教育委員は社会教育課の所管業務だけを考える場ではないので、全体をしっかり考えていかなければと思っています。

石狩市の社会教育委員は自らが地域で社会教育活動を実践している人が多いので、身近

な地域の話題を話せるといった強みを生かして、今日出た話題を踏まえて今後の検討を進めていきたいと思います。

【船木委員】

子どものいじめの事件が度々ありますが、事件が起こった後に犯人捜しをするようなことしか大人にはできないのかととても残念に思うことがあります。

学校や親の責任にするのではなく、なぜいじめが起こるのかという部分で社会教育がなにかできるのではないかと思っています。自己肯定感が低いほど犯罪を起こす可能性が高いという研究結果もあるので、子どもの自己肯定感を高める活動を我々もしていかなければならないと感じています。

【木村委員長】

子ども達の自己肯定感を高める活動があるべきというのは同感です。

口火を切っていただいたので、他にどうでしょうか？

【山田（治）委員】

かつて、講座を企画・運営する組織はいくつかにあったのですが、生涯学習・社会教育を定着させたいという気持ちで力を合わせできたのがいしかり市民カレッジです。

その考えの根底には石狩市民の多くが札幌人だということです。石狩に住み、札幌で働いていた人たちが退職してやっと石狩のことを知ろうとするのです。石狩に数十年住んでいても石狩のことを知らない人が多いので、先ずは知ってもらえるようにと考えてこの活動をしています。

さらに、高校進学時に札幌に出てしまう多くの子ども達が、地元の良さを知り、戻ってくるように、土日の開催や内容も含め、子どもにも出てもらえるように検討しています。

【木村委員長】

退職後にやっと石狩のことを知ろうとする人が多いですよね。

【二上委員】

文化協会では市民を巻き込んで文化ホール建設を目指しています。文化ホールを中心に各地区の文化活動の交流や子ども達のつどいの場、いつでもここに来たらなにかできるといった環境が不足していると感じています。

【山田（聡）委員】

いしかりふれあいDAYについて、石狩の子ども達はゲーム・スマホの使用時間が長く、読書や新聞を読む時間が短い傾向があります。学校からも啓蒙をしていますが、社会

教育の面からも働きかけをお願いしたいと思っています。

不規則な生活の影響で朝起きられない、授業に集中できないなど、不登校にもつながる恐れがあります。不登校の要因はいろいろありますが、自己肯定感を高めることは重要です。学校現場も工夫しながら取り組んでいますが、まだ足りていないので、これからも大きな課題として、考えていかなければならないと思います。

【大橋副委員長】

全道の社会教育委員と交流した際に、石狩の社会教育委員は活発だねと言われたことがあります。木村委員長を中心に、厚田・浜益など地域に直接出向き、委員自らが学び、調査し、何が出来るかを考えていたからだと思います。

コロナ禍もあり、課題を見つけ、実践するところまでたどり着けないこともありましたが、改めて、自分たちから積極的に活動することが大事だと思いました。

【木村委員長】

図書館に社会教育課が入ったことで生まれた新たな連携を活かして、子ども達にとって図書館や公民館が大事な居場所だと思ってもらえるような取り組みが出来たらいいなと思いました。

【大橋副委員長】

地域課題を知るだけでなく、何が出来るかを考えてどう取り組めるかが社会教育委員にとって重要な役割なんだと思います。

【出口委員】

地域づくりと公民館・コミュニティセンターの関わりを研究しています。地方創生の取り組みの中で、地域運営組織を作っていこうという動きがあります。

公民館の数がかなり減っていますが、その多くがコミュニティセンターに代わってきています。地域づくりを行うにあたって、収益事業ができないことも含めて公民館にはその役割が果たせないという判断があったのではと思います。

公民館が抜けた社会教育課は腑抜けになっているような気がします。歴史的にも戦後、公民館を中心に地域づくりが行われてきました。このままの柱のない状況が続くと全国の社会教育の未来が危ぶまれると感じています。社会教育がなければならないものにしていかなければならないと思います。

あと、講座を運営する組織がたくさんありますが、表彰されて終わりといった学ぶことが目的になっているケースがほとんどです。是非、市民カレッジの活動、学んだ成果をボランティア活動、地域活動につなげられるようになるといいと思っています。

【山田（治）委員】

石狩市の現状・実態に合わせた活動をしていかなければと思っていて、近年は一人暮らしの高齢者が増えてきているので、なんとかして外に出てもらえる機会を作りたいと思い活動しています。その人たちが地域にそこで学んだことを広げてくれることが地域づくりにつながっているのではと思います。

社会教育は受け身ではなく、自分達から地域に入っていかなければ活動は広がっていかないと強く感じています。

【高橋（典）委員】

講座は主に平日の日中ということでしたが、土日の開催も検討しているとのことでしたので、親子連れや子どもを巻き込むことがあれば活動が広がっていくと思います。親子向けの企業見学は人気があると思いますし、企業にもメリットはあるのではと感じました。

また、子どもが主体的に講座や事業を企画して、認められることで自己肯定感の向上につなげられるのではとも思いました。

【木村委員長】

できるだけ皆さんにご発言いただきたいと思っていますが、他の方はいかがでしょう。

【近藤委員】

石狩だけの課題ではないと思いますが、現役世代、保護者世代の方が講座やイベントなどの学びの機会に中々参加していない現状があると思います。昔から状況はあまり変わってないと思いますが、やはりそのような方たちがいかに地域に関われるか、関わってもらえるようにしていくかが重要だと感じています。

【松本委員】

地域学校協働本部活動のあい風寺子屋教室などのボランティアをしながら、地域の学校のコミュニティスクール委員もやっています。

企画した事業がコロナで中止したりもありますが、集まらなくてもできる活動をしていこうということで日々がんばっています。

【大内委員】

厚田・浜益の学校は移動時間の関係で Kitara ファーストコンサートに参加できないということはどうにか工夫できないのだろうかと感じました。小学校６年間で１度の経験なので、どうにか検討していただきたいと思います。

【木村委員長】

当然検討していかなければならないことだと思います。

皆さん、ありがとうございました。

本日お話しいただいたことを事務局と整理して、次回の会議でのテーマと来年度どう進めていくかを協議していきます。

本日はどうもありがとうございました。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

令和 5 年 2 月 24 日

石狩市社会教育委員の会議　　委員長　木村 純